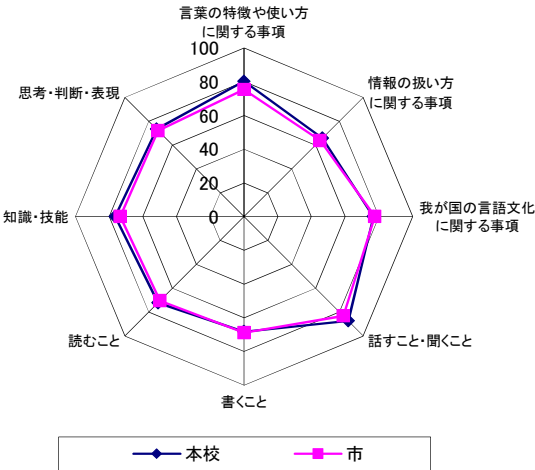


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.3	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	65.8	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	76.7	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	87.5	83.2	81.6
	書くこと	68.2	68.9	58.6
	読むこと	72.2	70.5	65.7
観点別	知識・技能	76.4	73.4	66.2
	思考・判断・表現	73.3	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

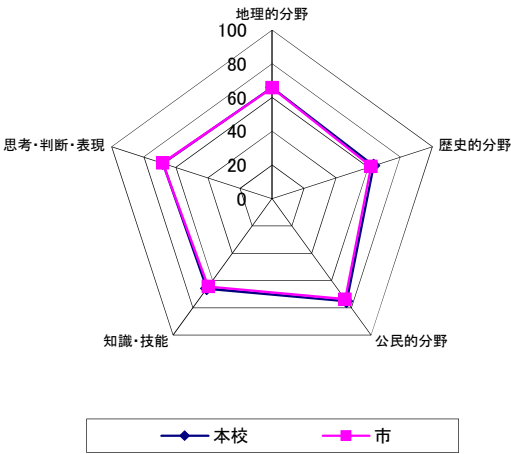
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○宇都宮市の平均より4.9%正答率が高かった。 ○漢字の読み書きについてはすべての問題において、市の平均正答率を上回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字の正答率が平均して高かった。継続して問題集を用いて指導を継続する。敬語の問題に関しても正答率が高く、一方、文法問題に関しては正答率が半分程度であった。特に用言の活用が苦手な様子なので、ワークなどを活用して知識を定着させていく。
情報の扱い方に関する事項	○宇都宮市平均より1.9%正答率が高かった。 ●情報と情報との関係について理解し、文章を整える問題に対する正答率が低かった。	複数の情報を視覚的に整理して必要な情報を捉えさせたり、段落の役割を考えたり、文と文、段落と段落のつながりについて捉えたりする学習を充実させ、情報同士の関係について捉える力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	●宇都宮市平均より0.9%正答率が低かった。どの問題も市の平均を下回っていた。 ○問題の正答率はどれも7～8割と、多くの生徒が正答できていた。	歴史的仮名遣いの理解度が7割程度なので、正答率が向上するように、授業で音読や暗唱を行ったり、歴史的仮名遣いのテストを行ったりして、理解度の向上を図る。また、古典の中で動作主は誰なのか、助動詞の省略はないか、敬語の関係はどうなっているかなども考えながら、多くの作品に触れながら読み深めさせていく。
話すこと・聞くこと	○宇都宮市平均より4.3%正答率が高かった。 ○特に、聞き取った内容をもとに、自分の考えを書く問題の正答率が高く、6.9%上回っている。	引き続き、話題に合ったスピーチ原稿を書いたり、発表したりすることで、話す能力を高めていく。
書くこと	●宇都宮市平均より0.7%正答率が低かった。特にグラフから読み取った数値を挙げて書く問題の正答率が低かった。	段落構成を意識しながら書くことと、自分の考えを述べることはできている。書くことが苦手な生徒も、諦めずに記入した様子が見られた。しかしグラフなどの情報を活かして書く能力が低いので、題材に対して必要な情報をグラフや表から読み取り、それらをまとめる活動を取り入れていきたい。
読むこと	○宇都宮市平均より1.7%正答率が高かった。特に文学的文章の展開の仕方を捉える問題の正答率が高かった。 ●説明的文章の論理の展開について評価する問題と、文学的文章の表現の仕方について評価する問題に対する正答率が低かった。	情報の関係を捉えるだけではなく、文章の読解に課題が感じられた。説明的文章では各段落の関係や論の展開を捉えるため、指示語や接続語に着目させたい。文学的文章では情景描写や人物描写等に着目し、考えさせる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.8	65.7	56.7
	歴史的分野	63.4	61.7	54.8
	公民的分野	75.3	73.8	73.3
観点別	知識・技能	65.9	64.5	59.5
	思考・判断・表現	68.1	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

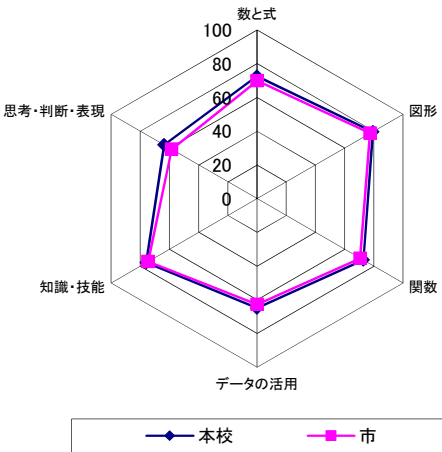
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○概ね市平均を上回っていた。特に「世界の姿」については市平均を大きく上回る項目が多かった。 ●「日本の地域的特色」を図る問題で、正答率が市平均より下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的・基本的事項の理解度をさらに向上をさせるために、新たな単元でも関連する項目について既習内容を取り上げるようにしていきたい。図や映像資料なども活用していくようにする。
歴史的分野	○ほとんどの問題の解答率が、概ね市平均を上回っている。1年次の内容「古代までの日本」についても正答率が高かった。 ●「近世までの日本」について、一部、正答率が低い問題があった。	・基礎・基本となる知識をさらに身に付けられるように、授業ごとに小テストを実施する。また資料や図の読み取りを丁寧に行うことと、説明したりする学習活動を取り入れ、資料活用 of 技能が高められるようにする。
公民的分野	○市平均を上回っており、理解が図られていると考えられる。特に「人間の尊重と日本国憲法」についてはほとんどの問題で市平均を大きく上回る項目が多かった。 ●「フランス人権宣言」についての理解の問題で正答率が市平均より下回っていた。	・授業や小單元ごとに小テストを実施し、基本的内容の定着が図られるようにする。公民は普段の生活に即した内容も多いため、身近な例を挙げるなどして生徒の理解が図れるようにしていきたい。また資料や図を読み取り、説明したりする学習活動を取り入れ、思考・判断・表現力が高められるようにする。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.7	69.9	66.4
	図形	79.4	77.4	68.1
	関数	72.8	70.6	60.8
	データの活用	64.9	62.7	54.2
観点別	知識・技能	75.8	74.6	70.3
	思考・判断・表現	63.6	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

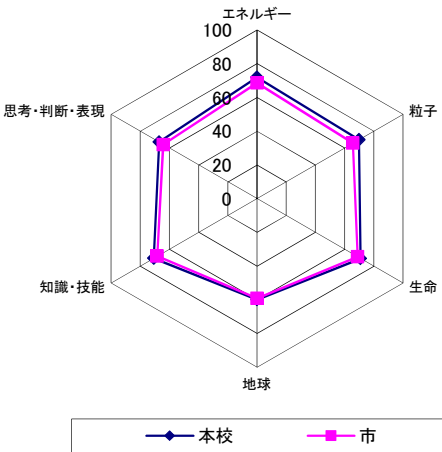
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○すべての問題で市の正答率を上回っている。特に連続する3つの整数を文字式で表したり、連立方程式を解く問題では、市を5ポイント以上上回っている。 ●正負の数の乗法、乗法公式を使う問題では、市の正答率とほぼ同じである。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続きワーク、プリント等を使い、授業中や家庭学習において、基本的な計算問題を数多く解くように促す。 ・乗法公式などはしっかりと暗記させ、授業中に繰り返し確認を行い、文章問題でも対応できるようにする。
図形	○ほぼすべての問題で市の正答率を上回っており、おうぎ形の面積を求める問題では、市を4.9ポイント上回っている。 ●空間図形の問題では、市を1.1ポイント下回っている。	・平面図形や証明問題では、引き続き演習問題を多く行い、知識や理解を深めるようにする。 ・空間図形においては、比較的捉えにくい生徒もいるため、デジタル教材やタブレット端末などのICT機器を利用し、視覚的に捉えられるように工夫する。
関数	○関数全体では市の正答率を2.2ポイント上回っており、特に、 $y=ax^2$ の問題や、1次関数のグラフを読み取り、説明する問題では、市を6ポイント以上上回っている。 ●比例の問題、1次関数の式を求める問題では、市を下回っている。特に、比例の関係での、 x 、 y の値の変化の関係を問う問題では、市を6ポイントも下回っている。	・式・表・グラフの関係を相互に捉えられるようにし、特に式においては x 、 y の関係や、定数が何を示しているかなどをしっかりと理解させるようにする。 ・具体的な事象を問う問題では長文を読み解き、理解する必要があるため、問題文の重要な部分に下線を引いたり、グラフと見比べながら読んでいくよう、促したい。
データの活用	○概ね市の正答率を上回っており、特に度数折れ線を読み取り、その特徴をもとに説明する問題では、市を7.4ポイント上回っている。 ●上記の問題では、市の正答率を上回っているが、正答率が47.8ポイントにとどまっている。 ●四分位範囲の大小を比較する問題では、市を3.4ポイント下回っている。	・箱ひげ図においては、四分位範囲の求め方などをただ覚えるだけでなく、元となるデータと比較しながら、箱ひげ図の持つ特徴について、より理解を深めたい。 ・度数分布表、ヒストグラム、度数折れ線などを見比べながら、関連性や特徴を考える活動を通して、データの分布の読み取り方の理解を深められるようにする。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	72.0	68.7	63.6
	粒子	69.8	65.7	64.2
	生命	70.9	68.9	64.4
	地球	59.9	59.2	54.3
観点別	知識・技能	70.7	68.4	64.4
	思考・判断・表現	67.1	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

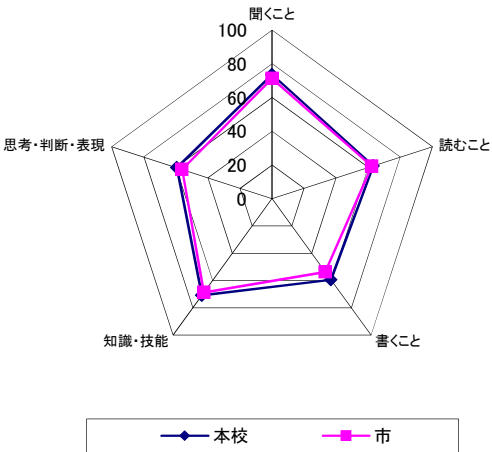
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○ほぼすべての問題で市の正答率を上回っており、特に実験で得た記録テープの長さから平均の速さを求める問題では、市の正答率を10.9ポイント上回っていた。 ●磁力線のように目に見えない概念や現象については、市の正答率を0.4ポイント下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の結果をもとに計算をしたり、考えたりする問いに対しては得点率が高かったため、引き続き実験に対する指導を行っていく。 ・磁力線など目に見えない概念や現象については、デジタル教材を積極的に活用して、知識の定着に努めていく。
粒子	○ほぼすべての問題で市の正答率を上回っており、特に、エタノールの蒸留の結果や水の電気分解の結果を問われた問題の正答率が高かった。 ●実験の結果得られた仮説を検証する実験を構想する問題では市の正答率を0.9ポイント下回っていた。	・実験に対する結果という知識に関しては一対一対応できている生徒が多かったため、引き続き実験のレポートを丁寧に書かせるなどの指導をしていく。 ・実験や話し合いで得られた仮説について検証する授業についても、一単位につき一回は実施ができるように授業を構成していく。
生命	○どの単元の問題でも、知識を理解しているかどうか問われた問題においては、すべての問題で市の正答率を上回っていた。 ●実験に用いる条件を推測したり、消化液のはたらきについて考察をする問題においては、市の正答率を下回っていた。	・知識に関する問題においては高い正答率が得られていたため、引き続きこまめな小テストなどを行い、知識の定着に努めていく。 実験の条件を生徒に考えさせたり、実験の考察を班ごとに考えさせたりと、生徒の主体的、対話的な授業を積極的に取り組むことで、生徒の思考力、判断力、表現力を醸成していきたい。
地球	○火山のかたちや火成岩の特徴について問われた問題では、市の正答率を上回っていた。 ○天気図や観測記録を見ながらそれが示す内容を指摘する問題では市の正答率を上回っていた。 ●前線の断面のようすについて問われた問題では、本校の正答率が35.0%とかなり低い結果となっていた。	・火山の形や火成岩については映像教材や実物を観察する実験を多く取り入れているので、引き続き実践していく。 ・天気図についても実際に天気予報をさせるような活動を取り入れていたことが知識の定着に寄与していると考えられるので、引き続き取り入れていく。 ・雲の様子に関しても、デジタル教材を厳選し、分かりやすい教材の作成に努めていく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	73.6	71.2	65.4
	読むこと	63.1	62.1	56.9
	書くこと	59.5	53.8	42.5
観点別	知識・技能	70.9	68.8	64.7
	思考・判断・表現	59.3	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○リスニング問題では、ほとんどの問題において、市の正答率の平均を上回っていた。特に対話文の応答を選択する問題の正答率が高かった。 ●リスニング問題のうち、英文を聞き、その内容を理解し選択肢を選ぶ問題では、正答率が低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ペアでの対話活動や、グループでの言語活動、指導者とのインタラクションを充実させることで場面・目的・状況に応じて聞いたり話したりする力を向上させる。 ・場面・目的・状況に対応して使用される有用な表現について継続して指導する。
読むこと	○長文などの読み取りでは、ほとんどの問題において、市の正答率の平均を上回っていた。特に、長文を読み、内容を理解し、選択肢を選ぶ問題の正答率が高かった。 ●さまざまな英文を読み取り、要点を捉える問題や必要な情報を把握する問題の正答率が低かった。	・教科書だけでなく、新聞など身近にある英文の読み取りなどを行い、社会への興味・関心を高めていく。 ・まとまりのある文章の要点を捉えるために、TF問題やQ & A問題などを多く取り入れていく。
書くこと	○書くことの問題では、市の正答率の平均より5.7ポイント高く、全ての問題において、市の正答率の平均を上回っていた。特に、3文以上の英作文を書く問題の正答率が高かった。 ●疑問詞を用いて書く英作文では、市の正答率の平均は上回っているものの、他の英作文の問題に比べると正答率が低かった。	・疑問詞を用いた疑問文の英作文を繰り返し書かせるようにする。 ・対話活動の中で、自分の理由や気持ち、考えなどについて表現させる活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立横川中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「めあて」「振り返り」に基づいた自主学習の実施	自主学習に取り組む際に「めあて」「振り返り」を記入させることで、何が分かり、何が分かっていないのか自分自身で確認しながら学習に取り組ませる。	「授業で習ったことをその日のうちに復習している」という設問に対する肯定的回答は、44.1%で、市の肯定的回答の割合を2.9ポイント上回っている。授業での「振り返り」をもとに、その日の学習につなげる生徒が多いことが分かる。
保護者と連携した学力テスト前の勉強計画表の作成と振り返り活動の実施	学力テスト前の学習計画表に保護者と担任の確認欄を設けることで、生徒・保護者・担任の三者で学習計画の確認を行う。また、振り返りでは、「実際の一日」と「理想の一日」のスケジュールを記入することで、学習への取り組みを可視化し、次のテストにつなげさせる。	「テストで間違えた問題は、もう一度復習している」という設問に対する肯定的回答は、71.1%で、市の肯定的回答の割合を2ポイント下回っている。テストの振り返りを行っている生徒は多いが、復習できていない生徒も見られるので、改善策を講じていく必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・授業での振り返りを生かした更なる家庭学習の充実
毎時間もしくは単元ごとに各教科で、自分の学びを自覚できる振り返りを行うことにより、生徒自身に自分が何が分かり、何が分かっていないかを確認させる。それを踏まえて、不十分な学びを補うための自主学習、あるいは理解できた内容をさらに深めるための自主学習を家庭学習として取り組めるように指導していく。その際に家庭学習においても「振り返り」を欠かさず行うことで、自分の学習状況に対してメタ認知させることで、より計画的で各自の実情を踏まえた学習を行わせていきたい。